



# 浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum News

2023.4.15

No.355

## 城絵図から考える

～意味のある道、価値のある道～

現在、NHKでは大河ドラマ「どうする家康」が放送されており、浜松城も徳川家康が青年期を過ごした場所として注目を集めています。浜松城は、永禄十一年（一五六八）に三河国から遠江国へ侵攻を開始した家康が元亀元年（一五七〇）に三方原台地辺縁部の丘陵地に新しく築いた城です。その際、もともとあった引間城は城郭の一部として取り込まれました。

この引間城の姿は、江戸時代の城絵図からその一端をつかがい知ることが出来ます。例えば、十七世紀に描かれた「遠州浜松城絵図」では本丸の北東に引間城の四つの曲輪が描かれ、三か所には「古城 侍屋敷」、一か所には「古城 蔵屋敷」と記されています。その



「遠州浜松城絵図」

(部分に一部加工 浜松市博物館蔵)

周囲は「土居」に囲まれ、さらに曲輪全体を水堀が廻っていました。これを現在の地形と比較すると、四つの曲輪の間にあった堀は、現在は道路となっています。北西の蔵屋敷の曲輪には、今は元城町東照宮がありますが、周囲の道路よりも一段高くなっており、土塁の痕跡が残るなど、曲輪であった名残を留めていることがわかります。また、絵図には西に「妙光寺口」、北に「玄田口」、東に「霜垂」(下垂)と書かれた門が描かれています。浜松城の付近を通ったことがある方にとってわかりやすいのは下垂口ではないでしょうか。現在、大河ドラマ館の建っている旧元城小学校跡地から東へ坂道を下ると、直角に折れ曲がった場所があります。この鍵の手になったところが引間城時代から防御をなした城門、下垂口の場所であり、その東側には、浜松宿よりも以前に栄えた引間宿があったと推定されています。

した時代にそのような不名誉な名称を名づけるとは考えられません。伝承の真偽はわかりませんが、この話の要点は家康が登場するところにあります。いっここから語られてきたのかはわかりませんが、遠州地域で語られる「家康伝承」は、このような青年期の家康が戦に敗れて退却した際の話が数多く存在することが特徴です。その中には地元の人に助けられて難を逃れた話も多く、そのやり取りからは庶民とも距離の近い気安さや、親しみやすさを感じさせ、現在の浜松市民が抱く家康像にも影響を与えているといえます。下垂の話も家康伝承が数多く語られる中で庶民によって形作られたのではないのでしょうか。さて、下垂口の道は四五〇年以上もほぼその形を留め歴史を今に伝えてくれています。ですが、今後とも変わらずに存在するかどうかは現在、未来の人にかかっています。歴史的に意味のある道であっても価値については流動的で抽象的であり様々な視点が存在し、歴史的な評価のみが基準とは限らないからです。だからこそ、事象から導き出せる情報を十分に調査検証し、歴史的な評価をなし、様々な価値と共にその意味についても多くの人と共有していくことが歴史文化遺産の継承を考える上で必要なことだと思います。

### 【参考】

浜松市文化財課「増補 浜松城と城下をめぐる」(二〇一五)  
静岡県女子師範学校郷土研究会編『新版 静岡県伝説昔話集』上巻(羽衣出版、一九九四年)

「遠州浜松城下絵図」(部分に一部加工)



引き続き、下垂について探ってみたいと思います。明光寺口や玄目口の名称は明光寺、玄黙寺という寺院の名称に因むものでした。下垂口・下垂町は人物や建物の名称に関わっている情報はなく、考えられるのは地形や地理的狀況を表しているということです。18世紀後半に制作された「遠州浜松城下絵図」には城の北側に「深田」と記され、城の東側の町家や侍屋敷も田圃に囲まれていた様子が描かれています。深田は現在の下池川町や旧上池川町にあたり、谷地形にできた池沼から川が引間城下へと流れ込んでいました。下垂町には池町や田町が隣接しているので、地名からも城の北側から東側にかけては川の水が入り込み、低湿地帯が広がっていたところを田圃として開発したことが推測されます。この地理的狀況から下垂町も元は湿地、あるいは湿地に接した場所だったのではと考えられます。

富山昭氏は、湿田・泥田を表す言葉として「うだ」という語があり、静岡県には同質の意を表す「ウタリ」という方言、小字名(雨垂の字をあてることが多い)があることを指摘しています。特に小字名としては安倍川以西の河川に沿って多く分布し、『角川日本地名大辞典』の小字一覧によれば大字の海老塚町、中島町、領家町、有玉、高林、向宿町、新貝、常光、鼠野、江之島にウタリがありました。下垂も地形的条件から考えると、方角を指す「下」と「ウタリ(雨垂)」からなる「シモウタリ」が元々の地名であり、そこから「シモタレ」に言葉が変化した可能性があります。下垂に対する「上垂」という小字名は見出せていないため説としては充分ではありませんが、城絵図からわかる過去の土地の様子からそのような可能性も考えられるのです。

【参考】富山昭「ウタリ」考—静岡県の方言地名—  
 (『地方史静岡 第19号』地方史静岡刊行会、1991年)

★「遠州浜松城絵図」および「遠州浜松城下絵図」は浜松市文化遺産デジタルアーカイブ(浜松市立図書館ホームページ)でご覧いただくことができます。

催し物のご案内

★テーマ展 「家康伝承と浜松」

開催中～9月24日(日)

浜松の各地に残された、家康にまつわる「家康伝承」に焦点をあてて、後世の浜松の人々がもった家康に対するイメージについてご紹介します

☆ギャラリートーク

4月15日(土)・5月17日(水)・6月24日(土)  
 10:00から30分程度

★小展示「道具たちの100年」

開催中～5月21日(日)

★はまはく GW 体験館

5月3日(水)～5日(金)

銅鏡風ミニ鏡づくり、  
 まが玉づくり、缶バッジづくり、  
 クイズラリー、ガイドツアーなど  
 楽しいイベントがいっぱい!



★火起こし体験

6月17日(土) 13:00～15:30

「舞ぎり式」や「もみぎり式」、火打石で  
 火を起こしてみよう

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

4月8日(土)・5月13日(土)・6月10日(土)

14:00から30分程度

場所: 蛸塚公園内旧高山家住宅

参加無料、事前申込不要



※各イベントの内容、定員、参加費などの詳細は、  
 ホームページ、SNSでご確認ください。  
 ※イベントは、変更、中止になる場合があります。

左から  
 ホームページ  
 ツイッター  
 インスタグラム



新型コロナウイルス感染予防対策として、ご来館の皆様は以下のことをお願いしています。

- ・館内での会話は控えめに
  - ・同行者以外との距離をあける
- ※体調がすぐれない場合は来館をご遠慮ください。

浜松市博物館 開館時間: 9時～17時

〒432-8018 浜松市中区蛸塚四丁目22番1号

Eメール: hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

4～6月の休館日: 4/17,24,26, 5/1,8,15,22,24,29 6/5,12,19,26,28

電話: 053-456-2208 FAX: 053-456-2275

HP: https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/